

ONAIR [オン・エア]

2019
July

No. 128

特集

生涯学習の心強い味方

放送大学附属図書館ガイド

[放送大学附属図書館の特徴] P. 01

[近藤 成一 館長 メッセージ] P. 03

学習センターサークル紹介

[愛知学習センター おしゃべり好学サークル] P. 04

まなびとめぐる、全国学習センター学生レポート

[長野学習センター／島根学習センター] P. 05

研究室だより [杉森 哲也 教授] P. 07

2018年度学位記授与式 P. 09



生涯学習の心強い味方

放送大学附属図書館

GUIDE

ガイド

本部にある附属図書館には全国の学生のための仕組みや、放送大学ならではの特徴があります。今回はその附属図書館を紹介いたします。

ぜひご利用ください!



放送大学附属図書館 職員 木野村 和人さん

放送大学附属図書館の特徴

大学は研究によってあらたな知の創出をし、その成果をもって日々、教育を行っています。

そうして生まれた知、すなわち学術情報が集積・保存をされ、公開・発信され、利用され、新たな知が生まれる「知のサイクル」の中で集積・保存・公開・発信の役割を担っているのがまさしく大学図書館であるといえるでしょう。放

送大学にも素晴らしい知が集積・保存されております。学生の皆様も積極的に図書館をご活用いただければと存じます。

また、「図書館でできること」というのは図書館という場所や紙の資料の利用のみではありません。レファレンスサービス(参考調査)、インターネットに存在する電子的資料、データベース

の提供、他大学・機関の図書の複写・貸借、放送大学の特色である放送教材のアーカイブ、多様な情報と図書館を通して出会うことができます。お困りごとがありましたら、図書館スタッフまでお声がけください。

放送大学附属図書館の特徴 ①

貴重本のコレクション

たくさんあります!



ちりめん本

ちりめん布のような風合を持った絵入り本の「日本昔噺集」は、英語版だけでなく仏語版、独語版などが出版され、外国人にも人気がありました。

展示スペース



3階にレプリカの「日本動物誌」や「西洋古版日本地図」、古写真、ちりめん本(一部同窓会寄贈)なども展示されています。



貴重図書室



貴重書は文化財として温湿度を調整した保存庫に収蔵されています。一般図書のようには閲覧できません。マイクロ化やデジタル化されたものをご利用ください。

放送大学附属図書館の特徴②

豊富な蔵書と館内設備

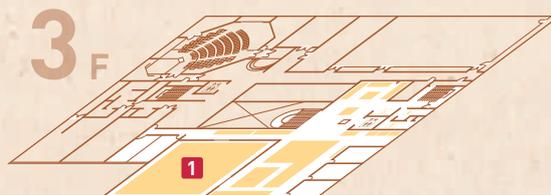


学習にも最適!



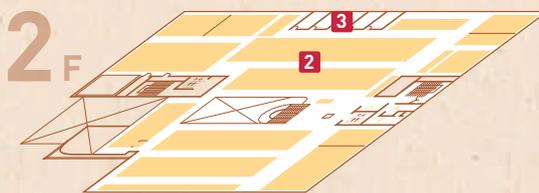
2 一般図書

放送大学授業の参考資料を含む貸出可能な約15万冊を配架。書架から類書を探すことで新たな発見もありそうです。ほかに1階フロアには印刷教材があります。閉講科目のものも併せてご利用いただけます。



1 サイレントルーム

3階の静かな部屋で学習に集中したい方におすすめの場所です。広く明るい部屋に閲覧席だけを置いています。入退室自由ですが、室内環境維持のためパソコンや音声の出る機器の利用はご遠慮いただいております。



3 研究個室

2階研究個室は、資料やパソコンを持込んでの論文執筆など、お一人で長時間集中したい時にお使いいただけます。時間指定、終日利用も可能な予約制です。



4 情報検索室

1階情報検索室には、情報検索用PC10台(うち短時間自由利用5台)とインターネット配信授業閲覧用PC8台を設置しています。ほかにデータベース利用PCにはプリンタも用意しています。



5 参考図書と閉講放送教材

放送大学の授業に関連する約1万冊の参考図書が配架されています。閉講放送教材も視聴可能です。いずれも貸出はできませんが、学習センターに取り寄せて利用できます。

放送大学附属図書館によるこそ

みなさん、放送大学の図書館を使っていますか？

そう言われても、千葉の幕張の本部にある図書館までそう簡単にはいけないよ、とおっしゃる方も多いと思います。たしかにそうですね。でも、図書館の入口はみなさんのすぐ近くにあるんです。

放送大学のホームページから図書検索システムOPACにリンクしていますよね。これがその入口です。OPACで探し当てた図書を借り出すのに本部までおいでいただく必要はありません。全国の学習センター・サテライトスペースで受け取ることができますし、費用がかかりますけれども、自宅に配達させることも可能です。また電子ブックであれば、その場で内容を閲覧することが

できますし、一定の制限がありますけれども、ダウンロードしてデータを手元に置くことが可能な場合もあります。

ウェブ利用の電子ブックのなかには『東洋文庫』『日本古典文学全集』『文庫クセジュ』などの叢書を丸ごと収録して提供しているものもあります。放送大学附属図書館はいくつかの電子ブック・電子ジャーナルに法人加入しておりますので、放送大学の学生であれば、学生のIDを使って図書館のサイトからリモートアクセスすることで、地球上のどこからでも同じ条件で利用することが可能になります。

もう一つ、OPACには「他大学検索」のタブがあるでしょう。放送大学の蔵書になくてもこの検索でヒットすれば、図書館間相互

貸借(ILL)の制度によって、コピーを依頼したり、現物を取り寄せたりすることも可能です。

それをOPACから申し込むこともできます。そうすると、みなさんの目の前にあるパソコンの画面から放送大学の図書館につながり、そこからさらに、他大学の図書館や、放送大学が法人加入している電子ブック・電子ジャーナルにつながっているということになります。これらは放送大学の学生であることによって利用可能になるものですから、どんどん使っていただきたいと思います。図書館によるこそ！



近藤 成一
放送大学附属図書館長

各種インターネットサービスのご紹介

1

リモートアクセス



リモートアクセスを使うと、電子ブック・電子ジャーナルが自宅等から利用できます。図書館ホームページのリモートアクセスのバナーからログインしてください。IDとパスワードはシステムWAKABAと同じです。

2

デジタル貴重資料室



放送大学所蔵の貴重書を電子的に閲覧できます。日本昔噺集「桃太郎」「浦島」や、小泉八雲の怪談集「化け蜘蛛」のちりめん本、1506年から1868年の間にヨーロッパで作成・出版された「西洋古版日本地図」200点。

3

Manapio



放送大学機関リポジトリ(Manapio)は、本学が作成した研究年報など学内刊行物や、所蔵するちりめん本などの貴重資料、そして博士課程学生による博士論文を電子的形態で保存・集積し無料公開するものです。

くわしくは放送大学附属図書館ホームページをご確認ください ▶ <http://lib.ouj.ac.jp/>



学習センターサークル紹介 | 愛知学習センター



おしゃべり好学サークル

今回は気軽な発表と討論による交流が特徴の、愛知学習センターの老舗サークルを紹介します。

サークルが多数ある愛知学習センター、中でも古い歴史のあるもののひとつが「おしゃべり好学サークル」です。あるイベントで知り合った学生が、「今後もこのつながりを保ちたい」という思いから始まったそうです。

活動内容は、メンバーがローテーションで発表、その討論を行うというものです。面白いのはテーマが自由であること。発表内容は人それぞれで、気軽に自分が知ってほしいことや考えを発表できる機会となっています。

活動風景



活動内容は発表と討論。知性とユーモアが重要です。

今回のテーマは、古参メンバーによる「高齢化するひきこもり」。最近、調査結果がメディアに取り上げられたホットな話題です。ベテランによる、冗談も交えた惹きつけられる発表でした。その後、活発な討論がなされました。発表も討論も、理性と豊富な知識に支えられ、時には笑いでの切り替えしもある、ユーモアと好奇心・向学心に満ちたものでした。

メンバーの皆さんからは、「学んだことが活かせるし、自分の興味以外の分野の話題を知ることができる機会」「多くの意見を聞くことができる」「ゼミとは違う気軽さと、話題の幅広さが魅力」「聞いてもらうという気持ちで自分の興味対象と接すると理解が深まる」など、なるほどと思えるお話をいただきました。

また、同時にサークル活動外でのイベント参加者の募集も行われます。今回は、裁判の傍聴、観劇(オペラ、能)のお誘いがありました。サークル活動のあとは昼食会があり、メンバーの交流が深められています。

教養学部は、受動的なスタイルの授業がメインですが、学びを深めたり、学習成果を実生活で活用するには、研究



名古屋市風景



多様な面を持つ名古屋市に愛知学習センターはあります。

やその成果発表が必要です。「おしゃべり好学サークル」は、研究活動以前の、知的好奇心を能動的に深める場として、とても有効と感じました。

それ以外にも、「自分の興味分野を学友と共有する」「幅広い意見を聞くことで、自分の知識や考えを広げる」など、その人次第で、様々な生かすことができる素晴らしい活動です。興味がある方はぜひ見学してみてください(要事前連絡)。

活動日 毎月第1日曜日

メンバー 23名

※2019年7月現在

まなびーとめぐる 全国学習センター 学生レポート

放送大学のイメージキャラクター
まなびーが全国の
学習センターにお邪魔し、
学生生活の一部を
見せてもらいました。



村上 好成 所長



NAGANO

長野
学習センター

学生リポーター  後藤 直美さん

子育てしながら特別支援学校教諭の免許取得を目標に学んでいます。入学したばかりなので、まだ手探りの状態ですが、楽しんでいきたいです。新しい長野学習センターは綺麗で快適です。

01



長野学習センターは、2019年4月にJR中央本線上諏訪駅前の商業施設「アーク諏訪」の3階へ移転しました。建物1階にはスーパーマーケット、2階には各種店舗が入っています。

02

ホール



03 受付

04



面接授業

立石公園



霧ヶ峰高原



05

長野学習センターのある諏訪市は、諏訪湖や上諏訪温泉、霧ヶ峰高原、諏訪大社などの観光スポットがあります。面接授業でお越しの際は、ぜひ足を運んでみてください。

諏訪湖の花火





田坂郁夫所長

放送大学イメージキャラクター
まなびー



まなびーは2008年9月に生まれた放送大学のイメージキャラクターです。「あなた」の心に学びを届ける伝書鳩をイメージしています。命名の由来は、放送大学で学び、未来への夢を広げる鳩。「ピー」は鳥の鳴き声、平和のピース。キャラクターデザインは、漫画家・この史代氏(2001年放送大学卒業)です。

SHIMANE
島根
学習センター



学生リポーター **島根学習センター6人組さん**

6人の年齢合計450歳超、各セミナーや研修旅行などみんなで楽しく参加しています。(左より佐藤ひばりさん、川上美里さん、安部保江さん、竹下孝子さん、森脇エイ子さん、金田文子さん)



鳥根学習センターは松江駅から徒歩10分のスティックビルに入居しています。その3階のバルコニーに設置している横断幕とともに撮影しました。



図書視聴室



03

第1講義室前



松江城(国宝)



昨年「地理学から領土問題を考える」をテーマに隠岐の島町で開催しました。全国から参加がある、大変人気の面接授業です。



学生
研修旅行



宍道湖岸(嫁が島を望む)

毎年、当センターの公認サークル学友会の主催で日帰り旅行を行っています。昨年は「篤姫の宿を訪ねる」をテーマに岡山県矢掛町を訪ねました。



研究室だより

人間と文化コース／人文学プログラム

すぎもり

てつや

杉森 哲也 教授

人生経験を重ねるほど 歴史を学ぶ 楽しさも深まる

PROFILE

大阪府生まれ。放送大学教授、都市史学会常任委員。専門は日本近世史。東京大学文学部助手、放送大学准教授などを経て現職。著書に『近世京都の都市と社会』(東京大学出版会)など。



歴史の「学び直し」が、いま大人たちの間で人気ようです——。歴史は決して暗記科目ではなく、現代社会や人生を見つめ直すための大切な情報。そこで今回、近世都市史研究がご専門の杉森哲也教授に、歴史学の魅力や学ぶ楽しさなどお聞きました。

「家」や「墓」を守る仕組みは江戸時代に形作られた

現代社会の諸問題を考えるにあたっては、目の前で起きていることだけを見ていたのでは、問題解決につながらないだろう。歴史的経緯をふまえて考えなければ、物事は分からないから——。そんな思いが、私には基本としてあったのだと思います。

しかし私の場合、子供の頃から歴史学を学びたいと考えていたわけではありません

でした。大学でも、なんとなく人文系に進み日本史を専攻したという程度でした。

ところが、卒業論文を書こうという時、近世都市史研究者の吉田伸之先生に誘われて、はじめて京都にある史料所蔵機関を訪ねて史料調査を行うと、これがとても面白かった。そこから、近世京都の都市史研究が始まり、以来、私の最も主要な研究対象となりました。

そもそも近世とは、16世紀後半から19世紀後半までの約300年間、信長・秀吉の時代から江戸時代の終わりまでを意味します。現代の暮らしの中で、良きにつけ悪きにつけ伝統的だと感じるものの多くは、実はだいたいこの時代に形作られたのです。

なかでも画期的なことは、それまで公家や上層武士だけのものだった「家」を単位とする社会的制度が、一般庶民にまで広

がったことなんです。「家業」としての家の職業を営み、家の名前である「家名」と、家の財産である「家産」を守り継承させていく仕組みが、全社会的に成立したのが近世という時代です。今でも結婚式の時は、式場の案内板には「何々家と何々家、御婚礼」と表記されますよね。個人の名前ではなく、家の名前になっている。またお墓も、「何々家の墓」です。

膨大な史料を読み解き 近世京都の、歴史像を描き出す

その近世において、私は特に京都に注目し、都市の人々の生活のあり方や社会の仕組みを研究してきました。当時の京都は、江戸・大坂とともに三都と呼ばれる幕府直轄の巨大都市で、人口は約30~40万人。そ

の中で発展した、地域共同体である「町」のあり方や、商人や職人の社会の仕組み、武士、僧侶や神官、そして被差別民の諸相について、個別のいくつかの事例研究を積み重ねながら、多様で複雑な近世京都の歴史像を明らかにしてきました。

たとえば京都西陣でしか生産できない高級な絹織物である呉服は、朝廷をはじめ幕府・大名の儀礼や贈答などに用いられる重要な商品でした。そのため、呉服の生産地として、またそれを仕入れて全国に販売していく商人が集う商業都市として、近世京都は大きく発展します。近世を代表する巨大な商人である三井家も、呉服が事業の柱の一つでした。有力な呉服屋は、やがて近代になると百貨店になっていきます。

ところで、過去の社会のかたち、歴史像をどのようにして復元するか——と言いますと、博物館や文書館に保存・公開されている古文書や古記録などの文字史料を、丁寧かつ正確に読み解く。それが基本です。

最近は、「洛中洛外図屏風」などの絵画も、近世京都の町並みや社会の様子を知る貴重な史料として取り上げられるようになりました。文献では分からない当時の社会の様子、庶民生活の諸相まで細かく描かれています。また、実際現地に行って、同じ空間に立ってみることも非常に大事です。そこから見えてくるものが色々あります。特に京都の場合、役行者町、烏帽子屋町といった、江戸時代からの町名がそのまま残っていますから、歩いているだけで楽しいですね。

このように膨大な史料を収集・調査し、

パズルのように組み合わせることで、様々な角度から歴史像を描き出します。

でも、読みたい史料が見つからないことも非常に多い。一例を挙げると、京都のある町を拠点として順調に家業を発展させたある呉服商は、家史料が失われてしまいました。幸い、その町の町史料が現存していたため、町側の史料を用いることで、その呉服商一統の実相の一端を紐解くことができたのです。

やはり史料にも運命があるのですね。長い歴史の中で、いろんな理由で史料は消失していきます。蔵に眠っていた古文書が、所蔵者の代替わり時に廃棄されることもある。たとえば京都町奉行所関係の史料は、幕末維新期の混乱で、ほとんどが失われてしまいました。また何度も大火があり、多くの史料や文化財が焼失しています。

逆にいうと、いろんな偶然により失われてしまった大量の史料があり、それらがもし残っていれば、私たちが知らないような歴史像が復元できたかもしれません。

大人になってから歴史を学び直す面白さを実感

放送大学では、「日本の近世」というラジオ科目が来年4月から開講します。また現在、人を通して歴史を考える「歴史と人間」というテレビ科目を開講しています。

人というのは元来、生きた時代の拘束を受けていて、その中で生きているんですね。



たとえば、この科目の第12回講義で取り上げている、女子英学塾（現在の津田塾大学）を創立した津田梅子。偶然にも新5千円札の顔になるようですね。梅子は父親の意向で満6歳11ヶ月でアメリカに留学し、帰国後は女子教育に尽力します。彼女の人生は、自分の意思ではなかったものの、最初にアメリカに行ったことで、決定的に変わります。まさに黒船が来航し、日本が近世から近代へと向かう激動期に、その影響を強く受けた人生を歩むのです。

現代に生きている我々だって同じでしょう。人生、自分の意思で決められる部分と、どうしても時代に拘束されてしまう部分があるのです。

このように歴史を学ぶということは、現代を生きる自分の人生と重ね合わせて見ることもできるから面白いですね。人生経験を積むと、若い時は分からなかったことも、見えてくることがあるからより楽しめます。

やはり主体的な問題関心をもって、興味をもった事柄なり、地域なり、人物なりの歴史を調べていくと、漫然と教科書を教えられるのとは違い、歴史はどんどん面白くなっていきますね。歴史を学び直す意味も、より深まっていくのではないのでしょうか。



絵画も当時の暮らしを読み解く貴重な史料となります。

Information

お知らせ

新編著『シリーズ三都 京都巻』（東京大学出版会）が、7月刊行

江戸時代、江戸・京都・大坂は、「三都」と呼ばれる幕府直轄の巨大都市でした。この三都の共通性と独自性を比較検討する『シリーズ三都—江戸巻・京都巻・大坂巻』。このたび、杉森教授が編集を担当した『京都巻』が刊行されます。1200年以上の歴史をもつ「伝統都市」であり、「近世の巨大都市」である京都、その都市の実態を明らかにします。



2018年度 学位記授与式が行われました

2019年3月23日、2018年度学位記授与式がNHKホールにおいて、藤原誠文部科学事務次官、奈良俊哉総務省大臣官房審議官をはじめとする来賓の方々のご臨席のもと挙行されました。

2018年度の卒業生・修了生(教養学部卒業生5,988名、大学院修士課程修了生329名、大学院博士後期課程修了生7名)の卒業生総代・修了生総代に、來生学長から卒業証書・学位記が授与されました。さらに学長表彰として、名誉学生の表彰、「優秀授業賞」の加藤和弘教授・二河成男教授、「教育功績賞」の滝浦真人教授、「学長特別表彰」の宮野モモ子千葉学習センター所長の表彰が行われました。

学長式辞 学長 來生 新

皆さんご卒業、ご修了おめでとうございます。本日ここに、学士、修士、博士の学位を取得された方々と、ともに卒業・修了の喜びを分かち合うことができるのは、放送大学のすべての教職員にとってこの上のない幸せです。また、本日は文部科学省藤原誠事務次官様をはじめとして、日ごろから放送大学にご支援をいただいている、各界からのご来賓の皆様のご臨席を得て、放送大学の卒業・修了の式典を挙行できますことは、まことにありがたく、名誉なことでもあります。さらに、本日学位を取得された方々を支えて来られた、ご家族、関係者の皆様これまでのご苦勞に対し、放送大学教職員一同に代わりまして、御礼と感謝とお慶びを申し上げます。

本日の私の話は、今後ますますその速さを増すでありましょう「情報化」との関係で、人生100年時代の「学位」の意味を考え、その価値の根源にあるものについて考えてみようというものであります。

最初に人生100年をさらに超えて、90歳代から101歳までを放送大学での学びに傾注され、本日、皆さんと同じく卒業をされる北海道学習センター所属の加藤栄さんの紹介から始めます。加藤さんは、2012年に「社会と産業コース」を94歳で初めて卒業され、2014年に「人間と文化コース」2016年に「生活と福祉コース」を卒業され、今年、101歳と9ヶ月で、4つ目のコースである「心理と教育コース」を見事にご卒業されました。加藤さんが、世界最年長の学士号取得者であるのは、間違いのないところです。人生100年時代の生涯学習が求められる中、加藤さんの情熱と努力、それを支えた体力と気力は、まことに生涯学習者の範となすべき、鏡であります。加藤さんの偉業について、長く後世に伝えられて然るべきと考え、本日紹介をさせていただきます。

さて、本日学位取得をされる皆さんは、加藤さんに劣らず、すべての皆さんが、学問に対する情熱と気力を持続させて今日に至りました。それぞれの与えられた環境の中で、人には言われぬ困難、ご苦勞もおありでしたでしょう。皆さんを本日まで支えてきた努力や情熱の根源、言葉を代えて言えば、皆さんが得ようとしてきた、放送大

学の学位の価値とは何なのでありましょ
うか。経済学の基礎
概念に、機会費用＝
opportunity costが
あります。人間があ



る一つの選択をした時に、犠牲にした、他の選択肢のもたらしうる結果、それがオポチュニティ・コストです。人生のオポチュニティ・コストの源泉は、私たちの持ち時間の有限性にあります。私たちは、その終わりの時がいつ来るか、誰にも分らない有限の人生を生きています。

1988年に亡くなった、ロバート・A・ハインラインというアメリカのSF作家がいます。若いころに、私は、彼が書いた『メトセラの子ら』や、『愛に時間を』という一連の作品を読んで、オポチュニティ・コストという概念を自分の皮膚感覚として理解できるようになりました。小説の主人公は、ラザルス・ロングという、4000年を超えて生き、死ぬことのほかは、すべて体験した男性です。死ぬことのできない彼にとっては、選択の意味がなくなります。いま、この瞬間に、ある選択をしなくとも、永遠の時間の中で、ある時に捨てた選択が繰り返し可能だとすれば、選択によって彼が失うものは無くなります。しかし、逆に彼が得るものも、「犠牲にしたものとの比較によって生ずる価値」を持ち得なくなります。永遠に生きる存在は、必然的にニヒリストにならざるを得ないのです。



皆さん、振り返って思い出してみてください。皆さんが他の選択をしていたら得たであろうさまざまな喜び、よきものの総体を学位の獲得という、不確定な将来にかけ、他のさまざまな選択肢を捨て、それによって得たであろう喜びを捨てて、その結果として今日得た学位は、それらの他の選択がもたらしたであろうすべてのよきものを上回るよきものなのです。それが皆さんにとっての学位の価値に他なりません。

次に、今日の時代における学位の社会的な機能について考えてみましょう。今日の急激な情報化の進展がもたらすものは、すべての知識の陳腐化の速度の信じられないような増大と、そのますますの加速です。例えば、医学関係の知識が倍増する時間が、1950年代には50年、80年代には7年、2010年には3.5年かかっていたものが、2020年にはわずか73日になるとすらいわれています。知識が倍増するのに50年必要だった時代にあっては、20歳台で学位を得るために修得した知識は、現役の社会人として働く期間のほとんどにおいて有効性を保ち、部分的にそれを更新すれば足りていました。

しかし、ある分野の知識が100日もしないうちに倍増する時代では、学位が象徴する知識は、瞬く間に陳腐化せざるを得ません。今日の時代はまさにそのような時代に他ならないのです。それは一方で、生涯学び続けることを、人々に強いる時代の到来を意味します。また、他方で、学位の社会

的機能に新たな光を当てる時代の到来でもあります。学位は知的レベルの長期にわたる証明機能を失います。それが象徴するのは、学位の保持者が、ある時期に集中的、体系的にある分野の知識を習得した過去の事実の証明に過ぎなくなります。

これからの社会で大事なことは、ある瞬間に何を知っていたか、あるいは知っているかではなく、その人が、直面する課題解決に必要な過去の知識を、弾力的に更新する能力、具体的には、知識の更新の方法論の熟知と更新した知識を課題解決に向けて適用する能力に他なりません。この能力は、相対的に短期に、集中的、体系的に、ある学問分野に関連する知識と方法を習得する努力によってのみ獲得可能なものです。知識更新の方法の熟知と、問題解決能力獲得のために集中的、体系的学習をしたことの証明が、これからの時代の学位の果たす社会的機能です。

このような観点から見れば、生涯にわたって学習を続けるという生き方は、年齢に関係なく、自らの内にある未知や無知に対する鋭い自覚を保ち、その克服によって進歩する喜びを持ち続けるという、意思的な、強靱な生き方に他なりません。それは人が100年の時を超えて生きる21世紀の世界において、もっともつよく求められる美しい生き方である、と私は考えます。

皆さんが今日のよき日に満足せず、さらなる未知への旅を続けられることを願って、皆さんに、T・S・エリオットのLittle Giddingの詩から“What we call the beginning is often the end. And to make an end is to make a beginning. The end is where we start from.”というフレーズを贈ります。今日のよき日は「始まりへの到達に過ぎない」ことを十分に認識してください。皆さんの生涯をかけてのよき追究の旅に、実り多かれと申し上げて私の式辞を終わります。

大学は歌うプロジェクト



2019年度学位記授与式では、「大学は歌う」プロジェクトとして、合唱団と卒業生による学歌斉唱と、指揮者に山本純ノ介千葉大学教授をお招きし、ベートーベン交響曲第9番の合唱がありました。

2018年度 名誉学生 (学生表彰)

名誉学生とは、教養学部全てのコース(又は専攻)を修了した者で、かつ、人物、学習態度が良好である者に対し与えられる称号です。



名誉学生一覧

安島 桂子さん
安藤 亮さん
池田 博之さん
石丸 迪子さん
磯谷 三重子さん
伊野 忠雄さん
岩元 豊さん
内田 秀俊さん
加山 雅史さん
川田 昌宏さん
木下 知義さん
櫛田 政五郎さん
熊井 純子さん

倉持 幸子さん
木庭 かつよさん
齋藤 保さん
佐々木 一男さん
佐藤 正直さん
佐藤 摩利子さん
佐藤 元治さん
下村 絹子さん
白鳥 誠さん
杉山 秀雄さん
関崎 正さん
瀬戸 昇さん
高島 義則さん
高橋 敏子さん

高橋 フミエさん
高柳 恒二さん
田中 暁子さん
土田 公一さん
長崎 和美さん
仲塚 とし子さん
中村 和人さん
中山 高信さん
新津 雄二さん
西村 博美さん
根津 ヒロ子さん
橋本 和彦さん
畑中 和恵さん
疋田 勝三郎さん

平賀 昭子さん
船木 秀文さん
古道 京子さん
星子 博文さん
保科 正男さん
細木 敏生さん
本間 佑子さん
前川 尚三さん
増川 光広さん
益田 恵子さん
宮地 豊二さん
武藤 千代さん
村川 勝巳さん
森 啓子さん

山下 重夫さん
山根 智さん
山本 辰生さん
吉池 照子さん
吉田 奈美さん
吉浜 克洋さん
吉村 政一さん
和田 陽さん
渡邊 幸雄さん

50音順

昇任教授のお知らせ

2019年4月1日付にて、教授に昇任しましたのでお知らせいたします。



せきね のりこ
関根 紀子 教授

生活と福祉コース



こばやし まりこ
小林 真理子 教授

心理と教育コース



きたがわ ゆきひこ
北川 由紀彦 教授

社会と産業コース



すずき かずふみ
鈴木 一史 教授

情報コース

就任教員のお知らせ

2019年4月に就任した教員をお知らせいたします。



はしもと ともひろ
橋本 朋広 教授

心理と教育コース



のざき かん
野崎 歓 教授

人間と文化コース



はたの しげあき
波田野 茂幸 准教授

心理と教育コース

教務課

学生論文集「Open Forum 第15号」発行

刊行されて以来、反響をいただいているOpen Forum。このたび第15号を発行しました。本書は、2017年度の大学院修士課程修了生の修士論文を基にした学生論文集です。

放送大学大学院の学生たちは、どのような環境で、目標を立てて学んでいるのか？どのような形で教員の指導が行われているのか？学生の研究成果は？——Open Forumはこのような疑問に具体的にお答えする冊子です。各学習センターで閲覧できますので、ご興味のある方、修士課程への進学をお考えの方は、ぜひ手にとってご覧ください。また、各学習センター・本部(郵送のみ)においても販売を行っています。

https://www.ouj.ac.jp/hp/gakuin/open_forum.html



通常価格
823円(税込)

本学学生価格
658円(税込)

放送大学のYOUTUBEチャンネルも随時更新中です！

<https://www.youtube.com/channel/UCd8zAzjHklcPbnTDyn-q50w>



編集後記

「ON AIR」の創刊は1985年7月。昭和60年だった。今年も半年を過ぎ、この間に平成から令和へと、新しい節目を迎えた。生涯学習は、人生そのものを象徴する言葉となって、未来を切り拓く。時あたかも、本号の特集では、放送大学附属図書館の多彩な機能と設備が紹介されている。わたしが大学生の頃、大学図書館といえば、書庫の本たちは、いにしへの

静謐な時間の堆積を漂わせて、ほの暗さの中に在った。今や、図書館は全国各地と瞬時につながる可動性を持ち、自分の掌の中に呼び寄せうる変幻自在な存在である。しかし、自身の問題意識は、他者との交流を通して、研ぎ澄まされ、豊かになる側面も大きい。放送大学生であることの意味も意義も、そこにある。(編集委員・島内裕子)

学内広報委員会(2019年度)

委員長	教授	石崎 克也
委員	教授	大曾根 寛
	准教授	波田野 茂幸
	教授	北川 由紀彦
	教授	島内 裕子
	教授	仁科 エミ
	教授	隈部 正博
オブザーバー	副学長	池田 龍彦
編集事務担当		総務部広報課

ご意見や感想をお聞かせください。メールアドレス editor@ouj.ac.jp